

令和７年度

川口市立美術館 指定管理者 年間業務報告書

１ 川口市立美術館の概要

１-１ 基本方針

１-１-１ 基本方針

１-１-２ コンセプト及びミッション

１-２ 施設概要

１-２-１ 施設概要

１-２-２ 開館時間・休館日

１-３ 施設管理者概要

１-３-１ 指定管理者概要

１-３-２ 組織体制

２ 事業報告関係

２-１ 管理業務の実施状況

２-１-１ 当該年度の運営方針・年度総括

（１）運営方針

（２）年度総括

２-１-２ 文化事業実施状況

（１）開館プレ事業 および 準備事業

（２）グランドオープン以降の事業計画（参考）

２-１-３ 広報及び地域連携

（１）広報

（２）地域連携等

２-１-４ 運営準備状況

（１）ライブラリー

- (2) ミュージアムショップ
- (3) レストラン
- (4) その他

2-1-5 施設管理実施状況

- (1)安全管理、防災、緊急時管理業務
- (2)設備・機器等の保守点検、清掃及び管理業務

2-1-6 利用状況

- (1)利用実績

1 川口市立美術館の概要

1-1 基本方針

1-1-1 基本方針

- (1) 川口市立美術館は、川口市立美術館条例に基づき、市民の美術に関する知識及び教養の向上を図り、もって豊かな文化生活の形成に寄与することを目的として設置された公の施設である。この設置目的及び基本コンセプトを十分に理解し、公の施設としての公共性、公平性、透明性を確保しながら、誠意をもって管理運営にあたる。
- (2) 施設を有効活用し、隣接する川口総合文化センター・リリアなどの市内関係施設が、各々の持つ魅力を最大限に生かせるよう連携を図り、発信拠点として、本市の文化芸術活動の推進を図る。
- (3) 施設の効用を最大限に発揮し、より効率的・効果的な施設運営を行うことにより、さらに市民の芸術に触れる機会を増やし、アートへの関心を高め、新たな市民ニーズへ柔軟に対応できるように努める。

1-1-2 コンセプト及びミッション

(1) コンセプト

- ① 市民が集う新たな憩いの場として、誰もが気軽にアートに触れ、人と人をつなぎ、多様な価値観が共生共栄する美術館とする。
- ② 本市発展の礎を築いた先人から引き継いだ作品の展示を通じて、市域の文化や歴史、産業を学び、再発見させる美術館とする。
- ③ 子どもたちが本物のアートに触れ、挑戦する精神や創造性を育む美術館とする。
- ④ ジャンルにこだわらない展示を通じて感性を刺激し、未来を担う人材を育むなど、アートの力でこの町の更なる発展に寄与する美術館とする。

(2) ミッション

コンセプトを基に3つのミッションを掲げる。

① 継承

市内の収集家が所蔵する貴重な美術作品や本市ゆかりの作品などを適切な管理のもとに収集、保存するとともに、それらの作品と本市の文化、歴史、産業との関係を調査研究し、展示することにより、ものづくりの伝統とチャレンジ精神を次世代に継承する。

② 共生

年齢、性別、国籍、障害の有無、経済状況などにかかわらず、多様な人々を受け入れ、インクルーシブアートなどを活かし、誰もが気軽にアートに触れられるアクセシビリティに優れた施設運営に努め、共生社会の実現に向けて取り組む。

③ 育成

本物のアートに触れ、「観る」「学ぶ」「集い交流する」体験をきっかけに、豊かな創造力や思考力、コミュニケーション能力と培い、どのような事にもチャレンジし、多方面で力を発揮する、未来を担う人材を育成する。

1-2 施設概要

1-2-1 施設概要

川口市立美術館は、川口駅西口から徒歩3分の立地にあり、川口総合文化センターリリアおよび川口西口公園(リリアパーク)と回遊性を備えた施設である。展示機能を有する部屋は、展示室 1、展示室 2、展示ホール、多目的室、アトリウム、ギャラリー等である。

名称	川口市立美術館
所在地	川口市川口三丁目 1 番—2
開館年月日	令和 8 年 1 月 24 日
構造	地上 S 及び SRC 造 地下 SRC 造
規模	地上2階 地下 2 階 塔屋 1 階
敷地面積	6,238.94 m ² ※建築面積 2,568.09 m ²
延床面積	11,171.950 m ² :1 階 2,259.556 m ² 、2 階 2,225.999 m ² 、RF237.627 m ² B1F 駐車場 2,469.808 m ² 、B2F 駐車場 3,978.960 m ²

施設内容	< 1 階 >	事務室 警備中央監視室 収蔵庫前室 収蔵庫 倉庫	消火設備室 電気室 トラックヤード 作業ヤード 外トイレ
	< M2 階 >	展示ホール： 298 m ² ギャラリー ライブラリー 集密書庫	会議室 トイレ

	< 2 階 >	アトリウム： 369 m ² 展示室 1： 371 m ² 展示室 2： 155 m ² 展示倉庫 1 展示倉庫 2 一時保管庫	倉庫 多目的室 レストラン＋厨房＋食品 庫 ミュージアムショップ トイレ
	< B1・B2 階 >	駐車場	

1-2-2 開館時間・休館日

(1) 開館時間

午前 10 時から午後 6 時

(2) 休館日

月曜日

※ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する
休日(以下「休日」という。)に当たる場合は、その日後においてその日に最も近い
休日でない日

(3) その他

設備の補修及び点検、もしくは整備、又は天災等、その他やむを得ない事情がある場合
など、指定管理者は必要があると認めるときは、市長の承認を得てこれを変更し、又は
臨時に休館することができる。

1-3 施設管理者概要

1-3-1 指定管理者概要

指定管理者	アートがつなぐ川口の未来
構成企業	(代表企業) 株式会社 21 世紀文化芸術研究室 〒332-0017 川口市栄町 3-105-15-2 3 階 代表取締役社長 丸山晃 設立年月日 2020 年 9 月 資本金 500 万円
	株式会社日環サービス 〒333-0842 埼玉県川口市前川 1 丁目 1 4 - 1 5

	代表取締役 廣瀬直生 設立年月日 1971 年 5 月 資本金 2,000 万円
	株式会社埼玉新聞社 〒331-8686 埼玉県さいたま市北区吉野町 2-282-3 代表取締役社長 関根正昌 設立年月日 1944 年 10 月 資本金 8,000 万円
	株式会社テレビ埼玉 〒330-8538 埼玉県さいたま市浦和区常盤 6-36-4 代表取締役社長 川原 泰博 設立年月日 2020 年 9 月 資本金 15 億円

1-3-2 組織体制

館長 1 名、副館長 2 名（うち統括責任者 1 名）、副責任者である学芸課長 1 名・事務局長 1 名・施設管理 1 名、および学芸員、事務職員を下記のとおり配置した。令和 8 年 3 月 31 日時点の人員配置は下記の通りである。

	役職	常勤/非	業務責任者	資格
1	館長	非		
2	副館長	非		
3	副館長	常勤	統括責任者	博物館学芸員
4	学芸課長	常勤	副責任者	博物館学芸員
5	事務局長	常勤	副責任者	
6	施設管理	非	副責任者	
7	学芸員	常勤		博物館学芸員
8	学芸員(教育普及)	常勤		博物館学芸員
9	事務	常勤		
10	学芸・事務補助	常勤		博物館学芸員
11	アドバイザー	非		博物館学芸員

2 事業報告関係

2-1 管理業務の実施状況

2-1-1 当該年度の運営方針・年度総括

(1) 運営方針

当該年度は、令和 8 年 1 月 24 日の竣工式を滞りなく行うことと、9 月のグランドオープンまでは、美術作品に適した環境を整えるための「枯らし期間」であり、それまでの準備・立上げ期間として、施設の設置目的並びにコンセプトを踏まえ、諸準備及び段階的な事業を行った。

特に、「市民が集い交流する」「地域の文化・歴史・産業を育む」「新しい文化芸術の創造・発信拠点」という基本コンセプトを、地域と共有することを重視し、開館プレ事業を通じてその具現化に取り組んだ。

併せて、グランドオープンに向けた広報、川口市立美術館が有する公共的価値や可能性の検討、及び運営体制を整え、職員のノウハウの習得を目的として、事業を実施した。

(2) 年度総括

枯らし期間でという制約はあったが、この期間にしかできない館内ツアーやワークショップを行うとともに、運営体制構築に向けた取組を段階的に実施することができた。これらの取組は、本開館後の円滑な運営及び事業展開に向けた基盤形成として有効であったと考える。

2-1-2 文化事業実施状況

(1) 開館プレ事業および準備事業

当該年度における文化事業は、2026 年 9 月のグランドオープンを見据えた開館プレ事業として実施した。本事業は、開館周知、美術館の公共的役割の検討、及び職員の運営体制確認・習熟を目的とするものである。

① 開館プレ事業 第 1 期

「はじまりの足音」(2026 年 1 月～3 月)

川口市立美術館の開館並びに当館のコンセプトや活動内容について周知することを目的に、館内ツアーやレクチャー、ワークショップを実施した。

開催日	日数	事業名	会場	入場者数
1月31日(土) ①11時～ 12時30分 ②14時～ 15時30分	1日	ワークショップ「渡り鳥アートプロジェクト」	アトリウム	①26名 ②25名
2月14日(土) 14時～15時	1日	館内ツアー	館内全体	55名
2月22日(日) 11時～17時	1日	川口の文化を深堀するー鑄物のまちとベーゴマ文化ー	午前： 川口市立美術館並びに川口駅周辺 午後： 展示ホール	58名
2月27日(金) 14時～15時	1日	館内ツアー	館内全体	59名
3月7日(土) 14時～ 15時30分	1日	川口で何ができる？ミュージアムのアクセシビリティを考えよう！	展示ホール	43名
3月14日(土) 14時～15時	1日	館内ツアー	館内全体	56名
3月22日(日) 14時～15時	1日	館内ツアー	館内全体	55名
3月28日(土) 13時30分～ 15時	1日	原田裕規トークイベント「シャドー イング：川口～ハワイ旅行記」	展示ホール	39名
3月28日(土) 15時30分～ 17時30分	1日	原田裕規トークイベント「影を追うワークショップ」	展示ホール	13名

■開館プレ事業 実施報告

「はじまりの足音」(2026 年 1 月～3 月)実施報告

1 ワークショップ「渡り鳥アートプロジェクト」

川口にアトリエを構える小林万里子氏(テキスタイル作家)の企画による布や糸を使って鳥のかたちにながな装飾を加えるワークショップ。美術館では2025 年 9 月より同内容のワークショップを市内各所で複数回開催してきた。その最終回として、美術館で開催。一連のワークショップで制作された市民の作品は、令和8年度に開催する「はじまりの展覧会 1 祝祭の森へ」展で展覧する。



実施日

1 月 31 日(土)

①11 時～12 時 30 分

②14 時～15 時 30 分

会場

アトリウム

参加者数

①26 名 ②25 名

2 館内ツアー

学芸員の説明や質疑応答を交えながら、ツアー形式で実施する館内案内。

実施日

①2 月 14 日(土)、②2 月 27 日(金)、③3 月 14(土)

④3 月 22 日(日) 各日 14 時～15 時

会場

館内全体

参加者数

①55 名 ②59 名 ③56 名 ④55 名



3 川口の文化を深掘するー鑄物のまちとベーゴマ文化ー

川口市立美術館が取り扱う美術作品を生んだ文化的背景を検証し、その価値を明らかにし、市民が美術に親しむ機会の充実を図ることを目的とする郷土資料館との共同企画。井出祐史氏(川口市立文化財センター「郷土資料館」)をゲスト講師に迎え、午前中に美術館並びに川口駅周辺のフィールドワークを行い、午後に館内でベーゴマに関するレクチャーとベーゴマ大会を実施した。



実施日

2月22日(日)11時～16時

会場

午前:美術館並びに川口駅周辺、午後:展示ホール

参加者数

58名

4 川口で何ができる?ミュージアムのアクセシビリティを考えよう!

ミュージアム一般におけるアクセシビリティを考えるとともに、川口市立美術館のアクセシビリティ向上を目指し、アクセシビリティ向上のための先駆的な活動を展開している学芸員として業界内では名前の知られている石田留美子氏(さいたま市漫画会館)を招聘し、石田氏のこれまでの活動(来館者の多様なニーズに応じた展示案内や施設改善、プログラムの企画・運営など)についてレクチャーをしていただいた。



実施日

3月7日(土)14時～15時30分

会場

展示ホール

参加者数

43名

5 原田裕規トークイベント「シャドーイング：川口～ハワイ旅行記」

参加者が現代美術における表現の背景や思考プロセスへの理解を深めるとともに、作品鑑賞にとどまらない主体的な関わり方を促すこと、また、第一線で活躍する作家の実践に直接触れる機会を通じて、地域における文化芸術への関心を高め、市民と美術館との関係性をより豊かなものとしていくことを目的に、かつて川口にアトリエを構えていたアーティストの原田裕規氏を招聘。原田氏が近年取り組まれている「シャドーイングシリーズ」を中心に、その制作背景や具体的な制作プロセスについてレクチャーをしていただいた。



実施日

3月28日(土)13時30分～15時

会場

展示ホール

参加者数

39名

6 原田裕規トークイベント「影を追うワークショップ」

上述のレクチャーに引き続き、参加者が実際に手を動かしながら制作プロセスを体験することを通じて、現代美術への理解を深めることを目的として実施した。原田氏が近年手掛けている「シャドーイング」シリーズの一連のプロセスを体験的に実施する構成とし参加者が自己と他者の境界や、言葉・声を通じたアイデンティティの揺らぎについて身体的に理解するとともに、作品の背景にある思考や方法論への理解を深めることを目指した。



実施日

3月28日(土)15時30分～17時30分

会場

展示ホール

参加者数

13名

② 開館プレ事業 第2期の準備

令和8年度に行う「はじまりの展覧会」(令和8年4月～8月)の準備を行なった。
「はじまりの展覧会」では、市民に対して、美術館の開館や活動コンセプト、内容を周知するとともに、グランドオープンに向けて、アトリウム空間の活用方法や来館動線、施設運営の実践的検証を行う。

<参考>

①「祝祭の森へ」展

会期:4月18日(土)～5月24日(日)

内容:川口市に拠点を置く作家の小林万里子(テキスタイルアーティスト)を迎え、小林氏の作品展示とともに、小林氏が企画し、市内各所で令和7年度より実施してきた市民参加ワークショップの成果物を展示する。

②「未来の手触り」展

会期:6月13日(土)～7月5日(日)

内容:川口の文化を捉えなおすことを目的に、川口市立美術館の所蔵作品の紹介とともに、市民ひとりひとりの価値観や思い出に光をあてる作品を行う。

③「世界の蝶－自然が作り出した芸術」展

会期:7月18日(土)～8月2日(日)

内容:川口市在住のコレクターが永年にわたって収集してきた蝶の標本を展示。
川口の蝶、日本の蝶、世界の蝶という3つのセクションを設け、多様な蝶の標本を展覧するとともに、蝶の生態や環境を学ぶことのできるパネルを展示する。

* 全展覧会共通 会場:アトリウム
休館日:月曜日休(祝日の場合は翌平日)
観覧料:無料

(2)グランドオープン以降の事業計画(参考)

令和8年9月のグランドオープン時には、川口出身作家・蜷川実花による開館記念特別を実施予定である。その後、市展及び教育委員会関連事業、さらに川口ゆかりの作家を特集する特別展を段階的に実施する計画としている。

2-1-3 広報及び地域連携

川口市立美術館の開館並びに当館のコンセプトや活動内容について周知することを目的に、下記の広報活動を行った。

(1) 広報

① ホームページ、SNS の新規開設と情報発信

1 月 24 日よりホームページを準備期間のサイトから、本サイトへ移行した。
Instagram と X については、準備期間より引き続き運営している。3 月 31 日時点で Instagram のフォロワーは 703、X のフォロワーは 204 となり、イベントを重ねるにつれフォロワーが増えている。文章と画像を用い、親しみやすく、分かりやすく情報発信を行うことを心掛けた。

② チラシ・ポスター等

「はじまりの足音」のイベントのチラシを作成し、市内の公民館や図書館等の施設、川口駅市内の学校、県内近隣の学校、全国の美術館等に送付し、PR に努めた。
また広報かわぐちに積極的に情報を掲載した。

(2) 地域連携等

令和 8 年 2 月 22 日のワークショップでは川口市立郷土資料館より、また令和 8 年 3 月 5 日のワークショップではさいたま市漫画会館より、それぞれ講師を招聘して実施した。近郊地の関係機関と連携し、川口の歴史・文化を再発見するとともに、来館者とアクセシビリティについて学ぶ機会を設けた。

また、令和 8 年度には川口総合文化センター・リリア、および川口市立科学館との共同事業を行う検討をした。

今後、商工会議所や近隣の商店、小中学校、図書館等とも連携していく。

2-1-4 運営準備状況

(1)ライブラリー

グランドオープンからの一般公開に向けて、図書の整理、公開方法、人員確保、運用方法について検討した。

(2)ミュージアムショップ

グランドオープン時でのオープンに向けて、オリジナルグッズ開発、サイン・広報・ブランド計画等を行った。

(3)レストラン

9月のグランドオープンに向けて、施設整備、什器の選定、店舗スタッフの確保等を行った。

(4)その他

開館プレ事業の実施を通じて、受付、案内、監視等運営対応を実地で検証した。受付、ロッカー利用、ベビーカーや車椅子、傘立ての運用方法や、問い合わせ対応等、きめ細かな接遇ができるよう、マニュアルを作成。グランドオープンに向けての準備を進めた。

2-1-5 施設管理実施状況

法定点検及び日常点検を適切に実施し、設備及び施設環境の維持管理に努めた。重大な事故や不具合は発生していない。

(1)安全管理、防災、緊急時管理業務

環境整備(従事者教育、施設点検及び修繕等)を徹底し、安全管理及び防災に努めた。災害時や緊急時における対策についてマニュアルを作成し、職員間で共有した。消防訓練、避難訓練についても計画中。

(2)設備・機器等の保守点検、清掃及び管理業務

別紙1「R7年度定期点検年間計画実施表」にて報告する。

そのほか、下記を行なった。

- 令和7年1月 ・加湿器純水器カートリッジ交換サイクルの打ち合わせ
- 2月 ・照明スイッチ一括消灯変更
- ・レストラン、回遊ルートの切り離し

- ・ストックヤードシャッター破損(※施工業者で修繕)
- 3 月 ・空調スペース漏水対応
- ・東側壁面鳩対応
- ・レストラン異臭調査

2-1-6 利用状況

(1)利用実績

令和7年度(令和8年1月24日～3月31日)はからし期間中で、通常事業の実施ができなかったため、事業等で利用が発生した日数を利用可能日・利用日数として計上。

開館日数: 57 日

利用内容: 企画展・ワークショップ、館内ツアー(公募)、企画展・ワークショップに係る搬入・搬出、設営・撤去日

【部屋別利用率】

	利用日数	利用可能日数	利用率
展示ホール	15	15	100 %
展示室1	10	10	100 %
展示室2	9	9	100 %
多目的室	9	9	100 %
ギャラリー	9	9	100 %
アトリウム	9	9	100 %
ライブラリー	0	0	－ %
ショップ	0	0	－ %